

# 中世の墓

市内では、中世の館や村の遺跡だけでなく、墳墓跡ふんぼも確認しています。

守護所富樫館跡の近くで発見した市の跡では、16世紀前半で墓地に作り替えられます。墓は土坑墓2基どこうぼを確認しており、うち、1基からは、錫杖しゃくじょうと土師器はじき皿さら、もう1基からは、中国銭ちゅうごくせんが見つかりました。これらの出土品は副葬品と考えられます。

徳用クヤダ遺跡では、村の外れにある溝の中から、石製の五輪塔ごりんとうや宝塔ほうとうの部位が、複数見つかりました。五輪塔や宝塔は、墳墓の上に置かれる墓塔・供養塔くようで、近くに墓地が存在していたと考えられます。



市の跡で見つかった土坑墓